

荻窪のまちを「女みこし」が練り歩きました！

本日9月7日（水）から荻窪白山神社（上荻1-21-7）の例大祭がはじまりました。午後2時から例大祭の華である「女みこし」が大勢の観客であふれた荻窪のまちを練り歩きました。

荻窪白山神社の起源は、社伝によると文明年間(1469～1486)関東管領上杉顕定の家来中田加賀守が、屋敷内に五社権現社を奉齋したのにはじまり、後に中田一族が栄え、ここに社殿を建てたといわれています。

そんな歴史ある荻窪白山神社の例大祭が、今年も盛大に行われています。中でも最大の見どころは、昭和54年から始まった「女みこし」。当時は、女みこしはあまり例がなかったことや荻窪白山神社の祭神が女神の伊邪那美命であることから、ぜひ女みこしを実現しようという声があがり開催されることになり30年以上続く名物になりました。



今日は30℃を超える晴天の中、お揃いの赤色の法被をまとったOLや学生など約150人の女性の担ぎ手が荻窪駅南口の仲通り商店街を出発しました。宮太鼓の「どーん！どーん！」という音がまちに響いた後、「わっしょい！わっしょい！」の掛け声のもと重さが約400kgもある神輿を担いだ女性の担ぎ手が笑顔で進みました。

沿道からも掛け声や拍手。子供たちからも大きな声援が送られていました。

【問い合わせ先】

杉並区役所総務部広報課 TEL：3312-2111（代）